

Q.「まちづくりはひとつづくり」 具体的方策は

Q.「確かな学び推進会議」の内容と役割について

教育長 「わかる授業」とは、児童生徒が授業の内容を理解することであり、そのための人材配置、教育機器の整備や教職員の資質向上など、教育環境を整えることが必要。算数・数学や英語の授業では「チーム・ティーチング」を充実。小学校では専任講師を町費で配置。英語は、小中学校の連携を深めて、教員同士の研修、研鑽を強化し、子ども達の学習意欲を高める工夫をしている。また、学校ICT機器の整備により、更新されたコンピュータを活用し、興味の湧く授業を進めることができるようになった。

用語解説
|| ティームティーチング ||
 授業で、複数の教員が児童・生徒の指導に当たる授業形態のこと。
|| ICT ||
 情報通信技術（この場合、情報コミュニケーション技術を活用した教育のこと。）

有害鳥獣駆除によるシカ肉の活用を

質問 本町で40頭も駆除されているシカの肉を何かに活用することは考えているのか。

町長 平成18年度にふるさとチャレンジ事業として、シカ肉を活用したペットフードを試作した。商品の反応は良かったので研究中である。

シカ肉を活用するには、捕獲の問題、解体処理施設の問題、それらに携わる人の問題、品質の確保・保持の問題、事業化における採算性の問題など様々な課題がある。総合的に判断して、年間40頭程度の捕獲数では到底事業化は困難で採算が取れないのが実情。駆除したシカの処理方法は、現在の焼却処分が現状では最良と考えている。



後木 幸里 議員

「まちづくりはひとつづくり」の具体的方策は

質問 「まちづくりはひとつづくり」と述べられたが、具体的な方策を伺いたい。

教育長 大人も子どもも自分の住むまちに愛情をもち、住んで良かったと感じられるまちが理想である。人にはそれぞれ役割や責任があるが、多様な体験や多くの人々の交流の中からそれらを学びとっていくものと思う。

教育行政は、学ぶ場や機会を充実させつつ心も体も健全な町民の育成に努力している。つまり、人の痛みを理解するひと、物を大切にするひと、自らを律することのできるひと、学び続けるひとを支援し、育んでいくことに日々努力している。学校教育では、「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」といった調和のとれた児童生徒の育成を進める。社会教育では文化活動やスポーツ活動を通じて町民相互の交流、興味、趣味の高揚、自然体験等々の機会を設け、心豊

かな生活が送れるよう鋭意取り組んでいる。

町長部局では、「子ども元気に高年齢いきいき応援プログラム」による福祉的な視点での支援も十分に配慮されている。しかし、行政の営みだけでは十分とはいえず、家庭の役割（明るい家庭、しつけの充実、生活習慣の確立、読書習慣や自宅学習の充実）や地域の役割（挨拶、地域での助け合い活動、防災意識の高揚、自治活動への協力参加等々）も重視しなければならぬ。これらが、相互に連携し、調和することが人づくりであり、住み良いまちづくりであると考える。

「確かな学び推進会議」の内容と役割について

質問 教育行政執行方針で示された、「確かな学び推進会議」の内容と役割について伺いたい

教育長 「新十津川町確かな学び推進会議」は、児童生徒の学力や学習状況の実態を調